

料金改定案作成における検討事項について

課題	対応策（案）
<p>小口使用者や大口使用者に過度に負担が生じる。</p> <p>※基本料金への配分が大きくなることで小口使用者の改定率は高く、大口使用者の負担額は大きくなる。</p>	<p>①基本料金改定の上限は現行基本料金の1.5倍程度に留める。</p> <p>②家庭用で使われる口径13mm、20mmについて、10m³までに新たに段階料金、低い単価を設定する。</p> <p>③逡増度を緩和するため最高単価の引き上げ幅は最小限にする。</p>
<p>水道の使用抑制・水源転換リスクへの対応が必要となる。</p> <p>※負担感増により水道の使用を控えたり、大口使用者にあっては井戸水や工業用水に切り替えたりするリスクがあり、そのことによりさらなる料金の引き上げが必要となる負のスパイラルに陥る可能性がある。</p>	<p>①従量単価の引き上げは最小限に留める。</p> <p>②口径13mm、20mmの小口使用者に対しては増加額を負担の少ない範囲に留める。</p> <p>③中口使用者の改定率が概ね目標とする率になるよう設定し、大口使用者に対しては増加率の軽減を図る。</p>